

女性の意見を市政の参考に  
女性が活躍できるまちを目指して

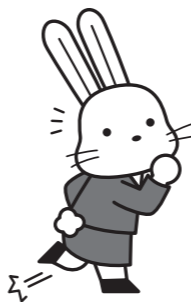
「みんなが誇れる県都ふくしま」を実現するための重点施策として進めている「女性が活躍できるまち」。この取り組みの一つとして、女性の意見を市政へ反映させることを目的とした講座「Women's Innovation College in (ウイメンズ イノベーションカレッジ イン)ふくしま」を実施しました。その内容をお知らせします。

問/男女共同参画センター ☎525-3784

講座開催の目的と内容

「女性が活躍できるまち」を目指し、地域の課題などについて、さまざまな分野の女性たちが、学び、交流しながら、提言書作成スキルを身に付ける目的で開催した「Women's Innovation College in ふくしま」。女性の声を市政に反映させる仕組みづくりとして、今年度から新たに取り組んだ事業です。

を考えながら提言書の作成を進めました。10月19日(日)の閉講式では、受講生の皆さんから市長へ直接提言書を提出し、提言内容(左ページ参照)を発表しました。市勢伸展のためには、女性が持つ力を最大限に発揮できる社会づくりが求められています。皆さんから頂いた提言を参考にしながら、今後も「女性が活躍できるまち」の実現に向けた取り組みを進めていきます。



「Women's Innovation College in ふくしま」の概要

アドバイザー

経済評論家・中央大学ビジネススクール客員教授 勝間 和代さん

少子化問題、若者の雇用問題、ワークライフバランス、ITを活用した個人の生産性向上など、幅広い分野で活躍中。

講師

市民社会パートナーズ代表 庄嶋 孝広さん

地域コーディネーターとして全国各地のまちづくりを支援する一方、在住の東京都大田区ではPTA会長やNPO法人理事を務め、人と人がつながる楽しい地域コミュニティづくりに取り組む。



各々が作成した提言書を市長へ直接手渡しました

回	開催日	内容
1	7月12日(土)	開講式 オリエンテーション 勝間和代さんの基調講演
2	7月26日(土)	講義やグループワークを通して政策提言を作成
3	8月23日(土)	・政策提言づくりの流れ
4	9月7日(日)	・他自治体の事例研究
5	9月27日(土)	・話し合いの技術を習得
		・社会調査などの各種統計の必要性
		・ファシリテーションとプレゼンテーションの研修と実践 など
6	10月19日(日)	政策提言の発表 閉講式



市長や、講師の前で各班の考えた政策や意見を発表しました

2班

「SUMOU課(移住相談窓口)」の設置

移住者誘致成功自治体の例を参考に、需要にあわせた情報発信や移住に関する一括相談窓口「SUMOU課」の設置を提言します。

民間団体が行った、「ふるさと暮らし希望地域ランキング調査」によると、福島県への移住希望者は多いようです。しかし、受け入れ体制が十分ではないために、移住に結びついていない現状があります。移住希望者のニーズを捉え、必要とされる制度を提供するとともに、お試し移住プランの実施や移住後サポート体制の充実、移住者優待制度などにより移住呼び込みを行います。

4班

「子供と高齢者にやさしいまち」

アンケートを実施したところ、子どもとの交流(勉強を見る、お菓子づくり、本の読み聞かせ、昭和時代の遊び、スポーツなど)を希望する高齢者が大勢いることが分かりました。

高齢者人口が増加する中、まだまだ元気で活躍できる高齢者は大勢いますが、活躍の場が少ないと感じます。一方、子育て世代は、育児への協力・支援を必要としている現状があります。

幼稚園、小学校の空き教室、学習センターなどを活用し、登録制ボランティアによる高齢者と利用する子どもたちとの活動内容や時間帯のマッチングシステムを作ることを提言します。

1班

事業所ごとに女性の働きやすさのポイント評価制度を導入

事業所ごとに女性の働きやすさを評価する、ポイント評価制度の導入を提言します。優良である会社の表彰や入札時加点、認定マークの付与など、働きやすさを分かりやすく可視化し公表します。

労働者は、新たに職を探す際の参考や、自身の職場の働きやすさを知ることができます。企業は、働きやすさの公表により、優秀な人材の確保や他社との差別化を図ることができます。行政は、男女共同参画担当の窓口が事業所にできることから、制度改正や研修の際に、情報の提供や収集などを迅速に行うことができます。

3班

7歳の子の読書量が20年後の福島を決める

読解力や言語能力の向上、多様な価値観形成のため、子どもたちの読書活動の推進を提言します。

学校図書や、教育現場、家庭での読書習慣の推進を行うほか、ユニバーサルデザインに配慮した市立図書館や、シニア世代が本のナビゲーターとして活躍するなど、読書環境の整備を行います。

震災経験を踏まえ、福島市の子どもたちが、情報を読み取り、自分の頭で考え、自分の言葉で自分の意思を伝えられる人材となる「福幸」を願っています。



受講生の皆さん。今後の活躍が期待されます